

いわてけん わがぐん にしわがちょうりつさわうちしょうがっこう
学校名 岩手県和賀郡西和賀町立沢内小学校

ふかさわ かずお
校長名 深沢 一男

所在地 〒029-5616 岩手県和賀郡西和賀町沢内字泉沢7-39-2

TEL 0197-85-2010

FAX 0197-85-2214

E-mail sawauchi-es@sweet.ocn.ne.jp

URL なし

1 研究主題

「子どもが輝く授業の創造」

一 体育科における指導法の改善を通して

2 研究の期間

平成25年度～平成29年度(5年目)継続中

3 研究の目的

本校では、「命」輝く教育の実践をスローガンに掲げ、研究主題を「子どもが輝く授業の創造」として研究に取り組んでいる。

本校児童は、100名程度で推移し、その9割はスクールバス通学であり、残り1割が徒歩通学児童である。研究開始当初は、肥満傾向児が多く、6年男子は6割が肥満という状況であった。また、生活習慣に課題があり、生活リズムの乱れがあること。体力面については、個人差が大きく、運動する子としない子の二極化が見られる。そこで、体育授業において、運動量を確保し「汗が輝く」充実した体育授業を実践していくと共に、基礎基本をしっかりと身につけ、「成果」のある体育授業を実践し、体力向上を図りたいと考えた。

4 研究の方法・実践内容

(1)「子どもが輝く」授業の実践

本校では体育の授業で「子どもが輝く授業の創造」を次のようにとらえている。

○「子どもが輝く」とは、子どもが運動の楽しさや喜びを味わうだけでなく、子どもがその授業を分かり、めあてに応じて達成感や成就感を味わうことである。

○「授業の創造」とは、指導計画を吟味し、授業研究を通して指導法の改善を行い、子どもたちに確かな力を保障すると同時に、教師の授業力を伸長させることである。

○「子どもが輝く」ための授業の基本構想高橋健夫氏が提唱した「よい体育の授業」の4観点でおさえ、共通課題として重点的に取り組んでいる。(高橋 1994年)

ア. 学習従事時間が確保されている授業(運動量50%以上)

イ. 学習の規律が確立している授業

ウ. 教師の肯定的な働きかけが見られる授業

エ. 児童の情緒的解放や学習集団の肯定的関わりが見られる授業

○授業の充実

ア. 学習従事時間が確保されている授業(運動量50%以上)について

・「体育授業場面のコーディングシート」を活用してマネジメント時間を短縮し、運動学習場面を十分に保障することで運動量を確保する「汗が輝く」体育授業を実現している。

・授業の導入の工夫として、運動量の確保やメインの運動につながる基本の動きを取り入れた鬼遊びや折り返しの運動、固定施設を活用した運動を行っている。また、必要に応じ逆さ感覚や支持感覚・回転感覚を身に付ける運動などを取り入れている。

イ. 学習の規律が確立している授業について

・単元の初めに単元全体の見通しを持たせることや授業の初めに単位時間の流れを確認することにより、スムーズに課題に取り組めるようにしている。

・単元全体計画表や学習の進め方、運動のポイントなどを常に掲示し、子どもたち自身が学習について確認できるようにしている。

ウ. 教師の肯定的な働きかけが見られる授業について

・教師の相互作用行動の観察コーディングシートを活用し、肯定的フィードバックや励ましを多くし、雰囲気の良い体育授業づくりを心がけている。

エ. 児童の情緒的解放や学習集団の肯定的関わりが見られる授業について

- ・達成可能な自分に合った課題設定をすることにより、成就感や達成感をもてるようにしている。
 - ・お互いに励まし合ったりアドバイスをし合えたりできるような、関わり合いのある場面の設定に努めている。
- オ. 「形成的授業評価」を行い、子どもの授業評価から授業実践の改善を図っている。また、それをもとに子ども一人一人の理解や声掛けにも活用している。
- カ. 授業の成果と次時への意欲をより確かなものにするため、授業初めの学習課題の確認とそれに対する振り返りを必ず実施している。
- キ. 感覚づくり・動きづくりを大切にし、場づくりや段階的指導の工夫等により基礎基本を身につけ「成果」のある体育授業を行っている。
- ク. 児童の実態に基づいた教材、教具、場の設定の工夫に努めるとともに、組み合わせ教材を考えた年間指導計画の作成や見直しに取り組んでいる。

(2)教科外における体育的活動

業間時間は、基本的には自由遊びの時間としているが、季節や児童会の取組により、次のような活動も行っている。

- 体力向上を図るため、高学年が遊びリーダーとなり、校庭をテーマパークのように、鬼遊びやボール遊び、固定施設（鉄棒やうんてい、上り棒）の使用等に区切り、下級生に遊び方を教えながら遊ぶ取組を行っている。
- 児童会体育委員会の企画により、ころがしドッジボール、じゃんけん陣取り、長なわ、鬼遊びなどを6年生がリーダーシップを発揮しながら進めている。
- 期間を区切り、縄跳びやマラソン、クロスカントリースキーに取り組み、体力の向上を図っている。

(3)家庭や地域との連携

「笑顔・安(暗)眠・外遊び」をスローガンに家庭と連携して取り組み、生活習慣の安定化を図っている。また、町の学校保健委員会とともに、子どもの健康に関する教育の充実に努めている。

5 研究の成果

- (1)運動量を確保し「汗が輝く」体育授業、基礎基本をしっかりと身につけ「できる」体

育授業を実践することができ、体育授業の充実が図られると共に、教員の「授業力」が向上している。

- (2)「体力・運動能力調査」の総合評価A B段階がD E段階を上回る児童の割合は、研究に取り組む前の平成24年度は25.1%、研究を始めてからは、平成25年度は31.9%、平成26年度は47.4%、平成27年度は61.4%、平成28年度は59.4%と着実に体力は向上している。
- (3)本校の課題であった「早寝・早起き」は、家庭と連携した取組により改善が図られ、生活習慣が安定してきている。
- (4)肥満児は、平成25年度14.5%、平成26年度7.8%、平成27年度7.6%、平成28年度10.3%、平成29年度7.9%と転入児童により増減はあるが、減少傾向である。

6 研究の意義、発展性

体育の授業は、運動がメインの授業である。運動する子としない子の二極化が危ぶまれている今、すべての子どもに達成感や成就感を味わわせるため、「よい体育の授業」の4観点を中心に目指してきた。

運動量50%を目指す授業は、単元目標や計画が子どもたちとも共有されることが必要で、今後も場の設定を工夫したい。また、運動を通した試行錯誤の時間は、子ども相互の助言や励まし合いの機会となることが分かった。「体力・運動能力調査」において、D E段階の子どもでも楽しみながら体力向上が図られる授業を工夫していきたい。

「振り返り」や「形成的授業評価」は、子ども自身にとって授業のポイントとなることの自覚、自己の成長や友だちとの関わりに気付くことができるものである。さらに授業改善の貴重な資料ともなっている。特に、「振り返り」は、他の教科や教育活動でも可能な限り実施するよう努めている。

今後も、体育の授業を核としながら、運動の日常化に向け、楽しく遊べる仕組みづくりと環境整備を続けていく。

なお、本研究内容については、平成27年度(第59回)岩手県教育研究発表会において発表しているほか、今年平成29年10月6日、西和賀町教育委員会指定による授業実践交流会(学校公開研究会)を本校会場に開催する。